

希少生物情報掲載により口外禁止

◆ロードキルによる生息個体減の懸念

⇒スロープ付き側溝などによる移動経路と脱出経路の確保

- ・産卵時の移動距離*を考慮し、産卵水域より100m以内の区間に脱出スロープを設置。
- ・設置区間では全面スロープとする。
- ・坂の下では、降雨時に柵に流れ込む両生類の脱出用に、スロープ付き柵を設置。
- ・橋の周辺は橋の下へ法面沿いに緩やかに流下させる。

※横断施設は産卵期には積雪により閉塞している可能性が高く、産卵のための移動個体に対する有効性は低い。

*野生生物保全技術（佐藤正孝・新里達也，2001年9月30日）

*都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動分散の距離に関する考察（徳江義宏・大澤啓志・今村史子，日本緑化工学会誌，2011年37巻1号）

希少野生生物情報を掲載しているため、
非表示としています。

エゾサンショウウオロードキル対策事例



スロープ付き側溝 製品例
(曾澤高圧コンクリート株式会社)



スロープ付き柵 製品例
(株式会社カンケン)

◆事業による生息個体減の懸念

⇒移植・埋め立て

- ・ 改変域で確認されたエゾサンショウウオの産卵水域は、陸上生活期（秋季～冬季）の間に埋め立て、改変域外での産卵を誘導する。

希少生物情報掲載により口外禁止

◆昆虫類：昆虫類調査結果の概要

- 樹林性の昆虫類が多く、開けた環境では草地性・湿地性の昆虫類を確認、水辺では水生昆虫類を確認。
- 環境に応じた多様な種構成。

調査日：H30年8月3～6日、R2年8月3～4日

希少野生生物情報を掲載しているため、
非表示としています。



樹林環境
R2.8.4撮影



植林環境
R2.8.4撮影



草地環境
R2.8.3撮影



湿地環境
H30.8.6撮影



水辺環境
H30.8.6撮影

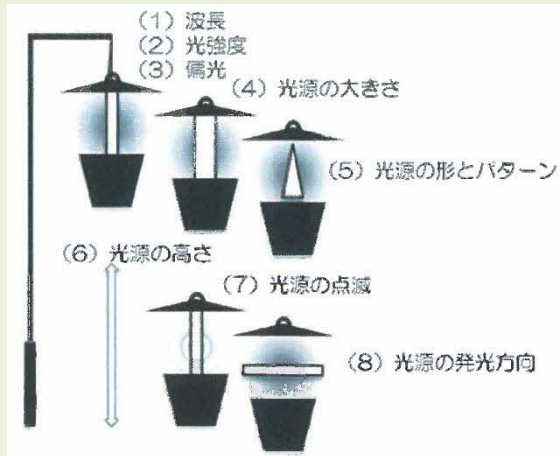
- ⇒改変域の最小化及び橋長の変更。
- ⇒誘引防止対策として街灯を設置しない。
- ⇒活動期（夏季）の夜間工事実施時は照明等にて配慮。
- ⇒走行車両への誘引防止対策の必要性を検討するための、現地調査の実施。

希少生物情報掲載により口外禁止

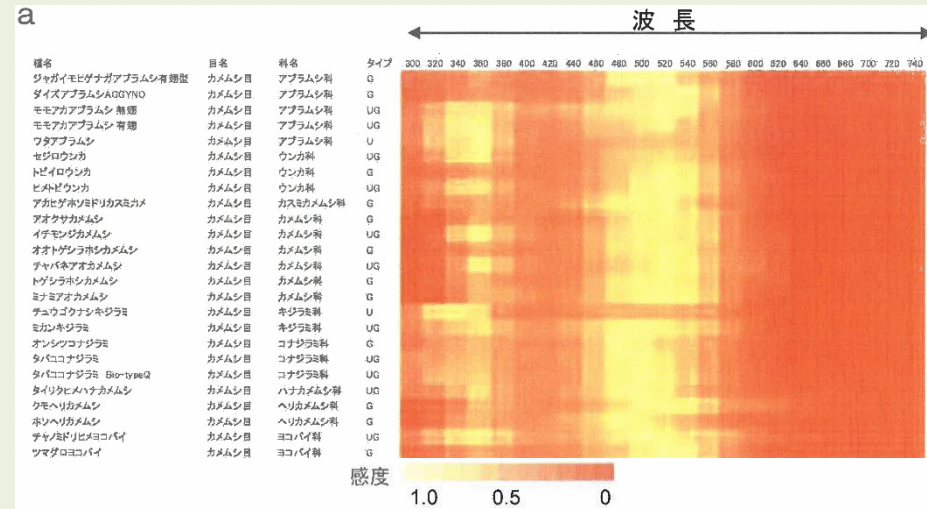
◆ヘッドライトによる誘引、ロードキルの懸念 ⇒昆虫対策の現地調査

- ・ 土工が進んだ段階で、ヘッドライトの漏れを想定した調査（ライトトラップ調査）を実施し、必要に応じて対策規模、対策箇所を検討。
- ・ ヘッドライトが広く届く箇所、樹林帯、水変域近く等を選定し、調査を実施。
- ・ ヘッドライトの光源（ハロゲンランプ等）を使用し、夜行性昆虫類が多く飛来する夏季に複数回実施。

昆虫が反応する光と光源の要素



重要昆虫の分光感度



出典：光を利用した害虫防除のための手引き
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構, 2014年7月